

第49回全国特別支援教育センター協議会研究協議会(大阪府大会)
第一分科会(教育相談)

横浜市の就学・教育相談の分析と 今後求められること

～多様化する教育的ニーズと子どもの学びに対応する相談とは～

横浜市教育委員会事務局 特別支援教育相談課

(横浜市特別支援教育総合センター)

主任指導主事 永井 直人

na03-nagai@city.yokohama.lg.jp

横浜市概要

人口:3,772,267人
世帯:1,838,206世帯
(令和7年10月1日現在)

概要説明 (横浜市)

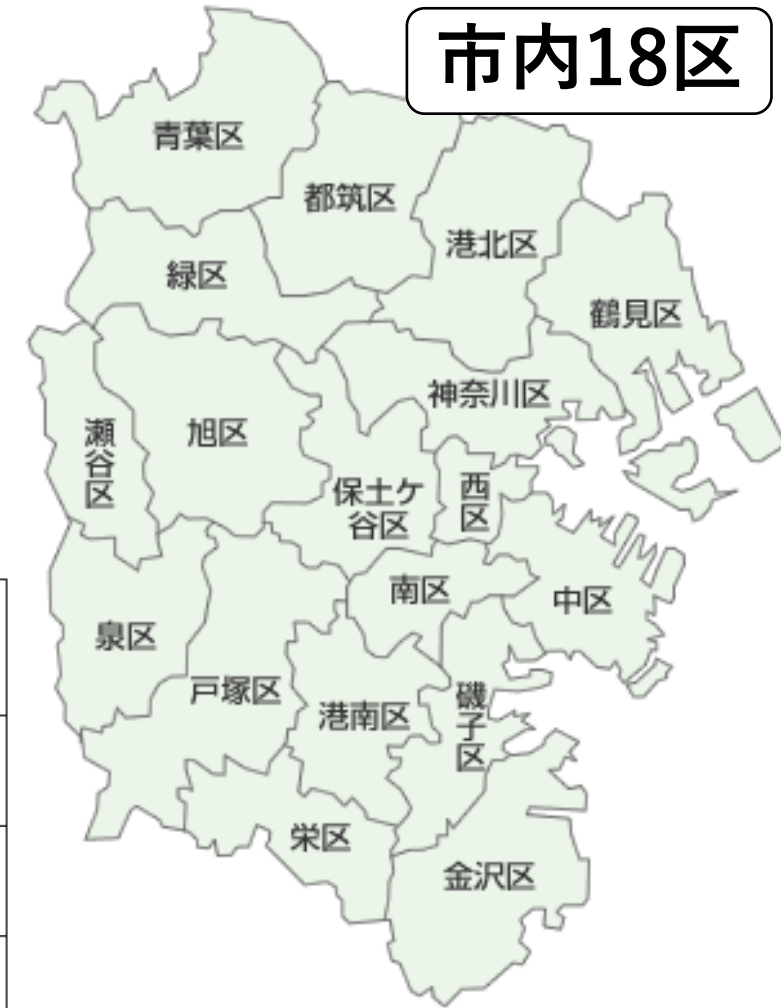
市内18区

市立学校在籍児童生徒数 : 252,288人
市立学校教員数 : 19,658人
(令和7年5月1日調査 速報値より)

市立学校一覧

令和7年4月1日現在

区分	小学校	中学校	義務教育 学校	高等学校			特別支援 学校	合計	
				全日制	定時制	併置			
校数	本校	334	143	3	6	1	2	13	502
	分校	2	1	0				0	3
	計	336	144	3	9			13	505



※中高一貫校を除く全ての小中学校（義務教育学校）に特別支援学級を設置。特別支援学校は5部門（知的・肢体・視覚・聴覚・病弱）。通級指導教室は、市内で情緒障害（ASD・LD・ADHD含む）・難聴・言語・弱視を設置、22校。

横浜市教育委員会における相談機関

概要説明（相談機関）



横浜市特別支援教育総合センター
（特別支援教育にかかる「学びの場」に関する相談機関）
開設：昭和56年（条例設置）

所在地：〒240-0044

横浜市保土ヶ谷区仏向町845番地の2

TEL:045-336-6020

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tokubetusien/soudan-madoguti.html>（横浜市HP）



横浜市教育総合相談センター
（一般教育相談・専門（心理・医療）に関する相談機関）

所在地：横浜市西区花咲町6丁目
145番地花咲ビル6F

新たな教育センター (仮称: 学びのサポートセンター)

概要説明 (新たな教育センター)



令和11年度開業予定

新しい価値の創造

教育相談を通じた
多様なアセスメントの実施による
個に応じた学びや
継続的な支援の実現と
DXによる横浜らしい
新たな学校支援の創造



- 教育相談
- 不登校相談
- 専門相談
- 学びの場の教育相談
- 就学相談

窓口の一元化

人材の一元化

システムの一元化

整備予定地



● 様々な教育相談に“ワンストップ”で対応できる教育相談体制

イメージパース (外観)

① 相談（特別支援教育に係る就学^(※1)・教育相談^(※2)、作業能力検査に基づく教育相談）

- ・特別支援学級の入級、通級指導教室の利用、特別支援学校の転入学希望の相談を通して本人への支援方法、指導内容の助言、発達における状態把握等の学校支援を行う。特別な学びの場に関する相談・判断を行う。

（※1）就学相談は、次年度学齢に達するお子さん（年長）の相談。

（※2）教育相談は、市立小・中・義務教育学校に在籍している児童生徒の相談。

相談体制

常勤として、指導主事8名・心理職2名・PT1名
会計年度職員として、教育相談員13名・心理判定員11名・ST2名・OT1名・作業能力検査員1名

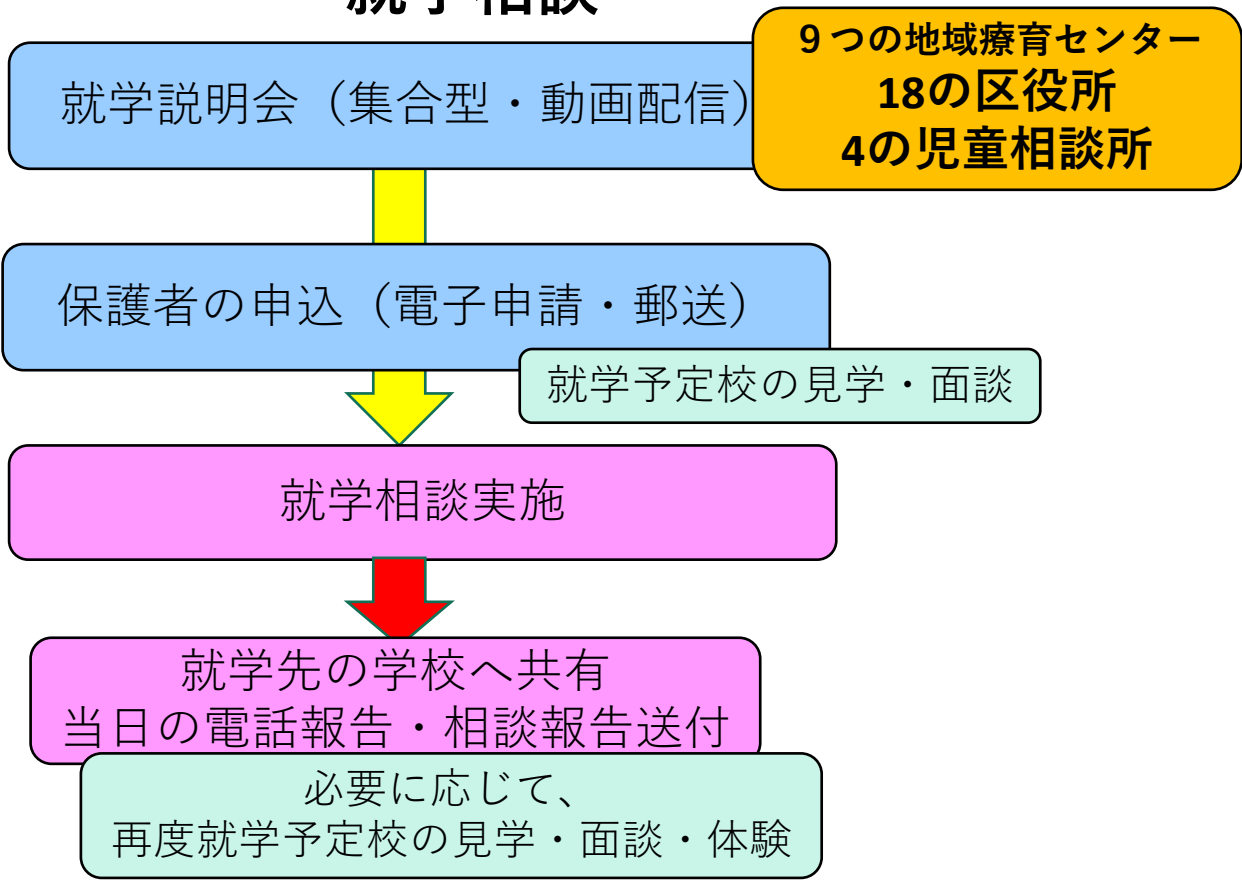
詳細は加入機関名簿 横浜市「51」参照

② 研修（教職員向け） 令和7年度は155講座実施予定

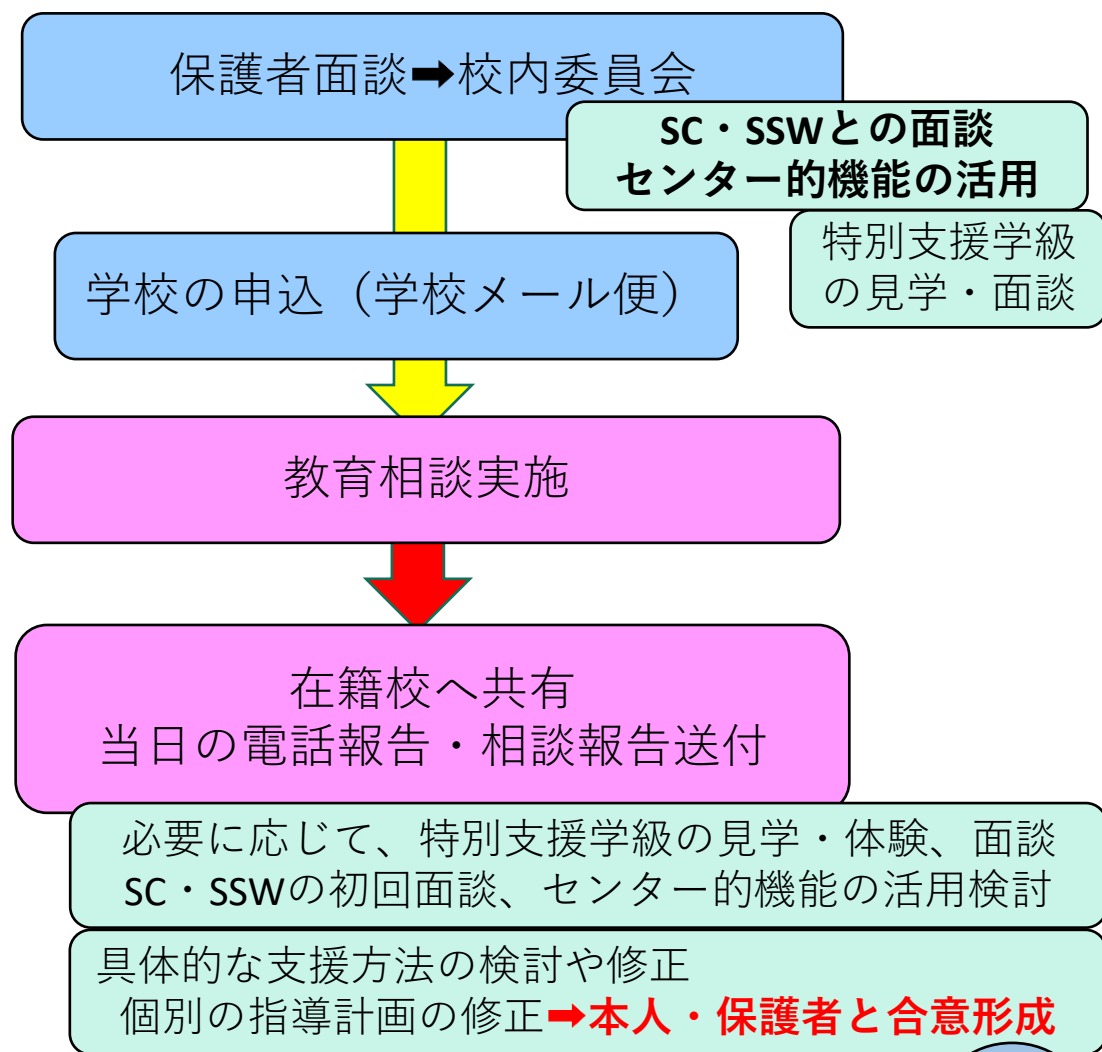
- ・特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室関係の研修（初担当研・5年次研・スキルアップ研）
- ・特別支援教育CO関係の研修（養成・スキルアップ・ブラッシュアップ）
- ・特別支援教育に係る専門研修【すべての教職員対象】

③ 研究（特別支援教育に関する情報発信）

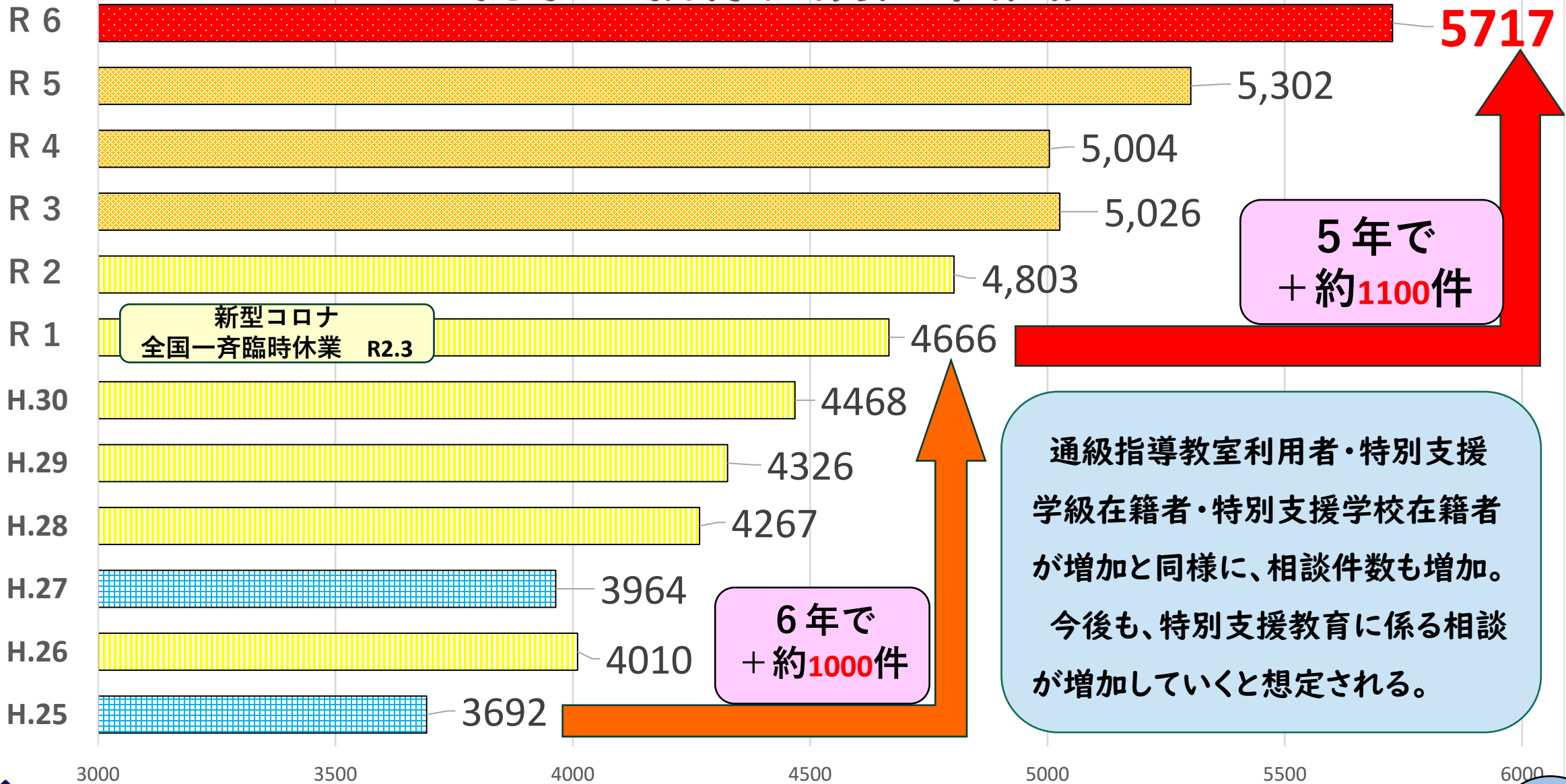
就学相談



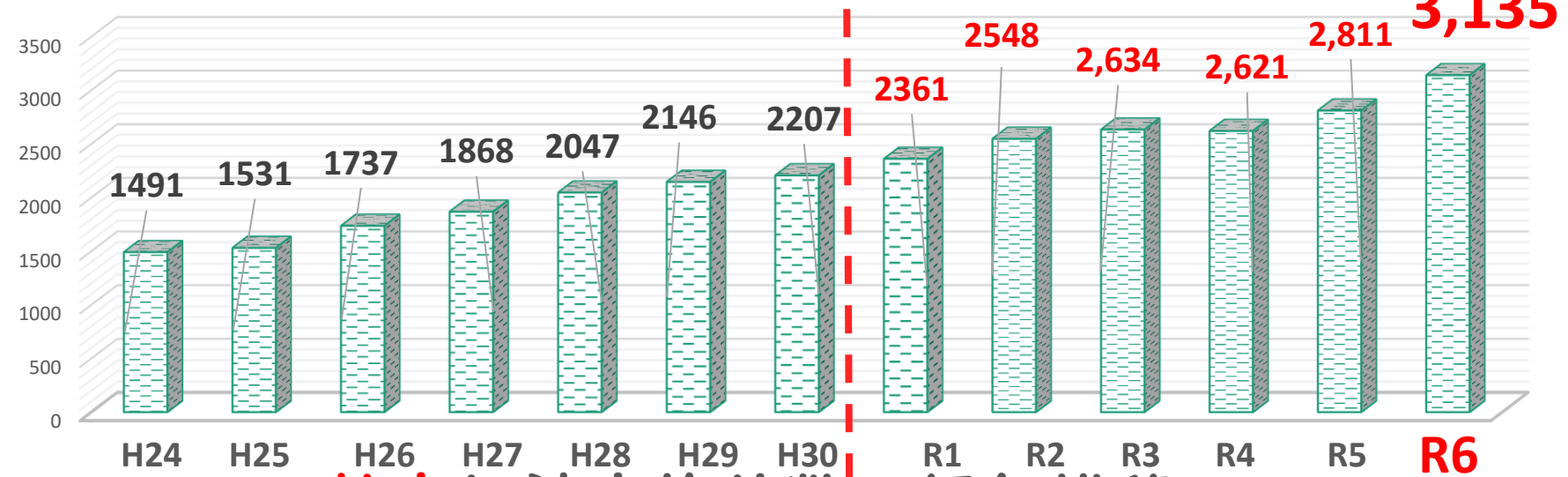
教育相談



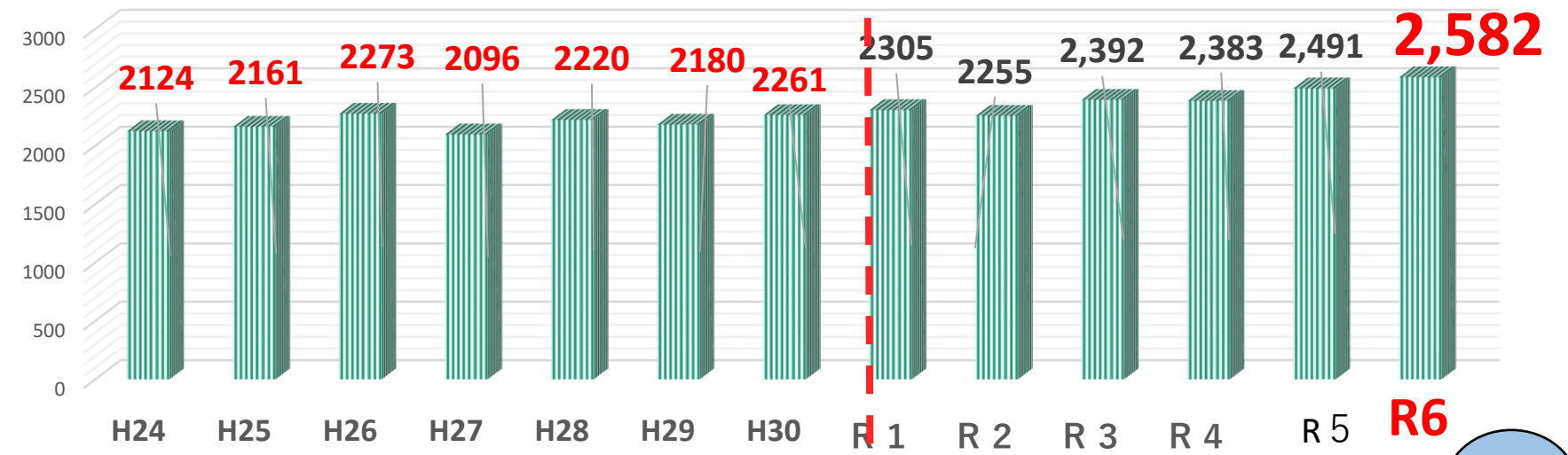
就学・教育相談経年推移



就学相談実施件数 経年推移



教育相談実施件数 経年推移



就学相談

増加傾向の背景に

- ・医療・福祉の充実
- ・「早期診断・療育・支援」
- ➡手厚い「支援」「配慮」を望む保護者が多い。就学に伴う「不安」「心配」がある。

教育相談

増加傾向の背景に

- ・学校の特別支援教育（子どもの学び）に関する意識の高まり
- ・専門機関にアセスメントを求め、よりよい学びの提供

令和6年度
(2025年)
就学相談件数
3,135件

12.16%

年長児25,783人

令和7年(2025年)1月1日時点

令和2年(2020年)
3月31日時点
年長児 30,653人
就学相談 2,361件
7.7%

平成27年(2015年)
3月31日時点
年長児 31,826人
就学相談 1,737人
5.4%

5歳児健康診断の導入にあたり、就学相談が今後も増加の見通し。

就学相談が一般化し、定着がより図られる。

【参考】

通常の学級に在籍し、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合は小中学校において推定値 8.8%となっている。

(小学校 10.4%・中学校 5.6%)

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」令和4年12月文部科学省

- 「読み」「書き」の困難さ・集団活動への適応の難しさ (学校低学年)
- 学習の量・ペースの不一致
- 授業観の変化からコミュニケーションにおける課題が顕在化

➡「読み」「書き」のアセスメントが必要になり、
より充実した支援につなげていく。

		就学相談	教育相談	小1	小2	小3	小4	小5	小6
R6	件数	3,135	2,582	571	591	421	320	193	312
	相談件数に占める割合	54.8%	45.2%	10.0%	10.3%	7.4%	5.6%	3.4%	5.5%
R5	件数	2,811	2,491	504	545	387	307	222	374
	相談件数に占める割合	53.0%	47.0%	9.5%	10.3%	7.3%	5.8%	4.2%	7.1%
R4	件数	2,621	2,383	510	488	395	289	172	367
	相談件数に占める割合	52.4%	47.6%	10.2%	9.75%	7.89%	5.78%	3.44%	7.33%

これまで

学びの場の検討

行政機関として、
必要なアセスメント

どこで学ぶのか

何を教えるのか

転換

これから

子どもの学びに
つながる多様なアセスメント

子どもにあった学び方・形態
空間は何か？

何を学ぶのか？

子どもの学びを
支える相談

学びやすい方法

学びやすい形態

学びやすい空間

学ぶ内容

子どもの多様な「学び」の支援につなげる

子どもの学び方等の見立て、子どもに合わせた「学び」の実現

○包摂的な学級運営への転換の必要性

(Learning Differenceがある) 多様な子どもが

学びやすい授業と過ごしやすい学級をつくる。【Learning Diversity】

○学習の目標・目的は明確に、**学ぶ方法は柔軟**にし、

子ども自身が学びの舵取りをしていけるようにする。

相談におけるアセスメントを

子どもの学びにつなげる

未来の希望(学び)の懸け橋となる

